

⑬【2か年度(2年目)】『ピワイチ』との結節による日本遺産「鯖街道」自転車走行空間創出社会実験 (福井県小浜市)

1. 実験概要

日本遺産「鯖街道」と琵琶湖一周サイクリング(ピワイチ)をつなぎ、自転車の旧道や国道の脇道への案内誘導、宿場内の歩行者と自転車の共存を目指して、地域性を考慮した「自転車走行空間整備」について検証する。

2. 実験内容、実験結果

(1)「鯖街道」と「琵琶湖一周サイクリング(ピワイチ)」との結節のためのアクセス等の検証

- 社会実験で設置した路面標示では、十分な誘導効果を発揮する結果とならなかったが、設置場所、情報量、デザイン改良、複数種類サイン導入、ソフト面の取組みなど、課題を把握することができた。
- 「鯖街道」と『ピワイチ』がつながるルートに対する関心が高まり、広域連携が生じていることから、接続方法や接続ルートの付加価値化、情報発信等について広域連携での取組みが期待される。



(2)「鯖街道」の安全安心で快適な自転車走行環境の検証

①景観に配慮した旧道・脇道への案内誘導サインの設置検証

- 路面標示による案内誘導だけでは誘導することが難しかったが、複数の案内誘導サインの導入、ターゲット設定、ナビアプリなどソフト面での取組みの重要性が確認された。
- 旧街道では「鯖街道」の道筋を示す連続した道標等や「日本遺産」構成文化財などへの案内標識の設置などが旧街道自転車旅の魅力を高め、誘客につなげるために重要な取組みである。

②宿場町や沿線集落における人(歩行者)と自転車との共存(空間配分)に関する検証

- 歴史的な宿場町の景観に配慮した注意喚起サイン等に関して、視認性の確保には課題が残った。
- 宿場区域の手前で事前に標示するなどの改善策が確認できた。
- ハード面だけでの対策では限界があり、マップ、WEB、SNS等の情報発信や走行ルールを作成し、歩行者や自転車利用者への啓発などの必要性があると確認された。



3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ①自転車走行空間整備に関して、簡便な方法での案内サインの設置を可能にする方策の導入
(ガードレールや道路標識など道路施設を利用した案内サインの設置を可能にして整備費用を軽減するなど)
- ②自転車向けの路面標示として視認性が確保できる適切な大きさ、色、文字のフォント、情報量などのマニュアル化
- ③重伝建地区など歴史的な町並み景観と調和しつつ、視認性が高いサインについての研究開発

⑬【2か年度(2年目)】『ビワイチ』との結節による日本遺産「鯖街道」自転車走行空間創出社会実験 (福井県小浜市)

4. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
路面標示や注意喚起サインの検証項目は何か？路面標示の文字等の視認性も調査すること。	サインの大きさ、色彩、高さ、ピクト、場所などの項目で視認性についてモニターへのヒアリング及びアンケートにより検証する。
熊川宿の注意喚起看板が自転車の速度によって視認できるかどうか、速度の抑制効果を実験で確認すること。	注意喚起サインを隠した状態と見える状態の両方で、自転車の走行速度を比較・検証する。
路面標示は事前予告と直前の2か所付けた方がよい	自転車には事前予告が必要であり、事前予告が100m手前でよいのかどうかについて検証する。
路面標示や看板は視認性も含めて素材を検討すると、社会実験が今後につながる有意義なものになる。	実証実験では視認性について、様々な項目で検証していく。
自転車と自動車との共存において、自転車の抑制策は進んでいないので、可能な限り取り組むこと。	熊川宿は景観上の制約や地元の意向もあり、注意喚起サインは1ヶ所のみとし、景観と調和したものにするため、その抑制効果があがらなければ何らかの改善策を探っていく。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題	課題への対応方針
案内誘導サインの連続性(分岐点以外でも一定間隔でのサイン設置)や旧街道の道筋にあたることの顕在化	・旧街道に「鯖街道」のロゴマークや道標を一定間隔で設置 (コストを抑え、簡易に設置できる方法の研究)
案内誘導サインの視認性を高める	・複数の案内誘導サイン(自立型と路面標示等の組み合わせ) ・案内誘導サイン(路面標示)の視認性向上 (案内内容の情報量を減らし、文字の大きさ等を調整、自転車用ロゴマーク作成)
案内誘導サインの設置場所や大きさの基準を再考(下り坂などは走行速度が上がるので見落としを防ぐため設置場所により基準を変える)	・分岐点は200m、100m、直前の3ヶ所(自立型サインとの組合せを含む) ・幹線道路や下り坂など路面標示の幅や長さを大きくして視認性を向上
サイクリングを「鯖街道」の誘客につなげるための自転車走行空間整備	・「日本遺産」構成文化財への案内誘導サインを旧街道沿いに設置
宿場など歴史的な町並み景観に配慮しつつ、視認性の高い注意喚起	・宿場区域の手前で注意喚起サインを設置して周知 ・自転車の走行ルールを作成し、マップやWEBなどで啓発 ・行楽シーズンの週末などは交通誘導員の配置など

6. 今後のスケジュール

- 令和7年度 ターゲット設定とターゲットの対応策検討、鯖街道サイクリングマップへのルート掲載、鯖街道サイクリングガイドツアー催行者への情報提供
- 令和8年度 宿場内等における自転車共存、受け入れ協議・対応、案内標示デザインとロゴマーク検討、鯖街道自転車用案内標示設置計画検討
- 令和9年度 旧街道から「日本遺産」構成文化財への案内標示設置検討、ビワイチと「鯖街道」と若狭湾サイクリングルートの結節点における案内標示設置検討、宿場町や沿線集落における人と自転車との共存に関する対応策の導入